THE LADIES' JOURNAL OF EDUCATION.

女學雜誌

驛遞局認可　明治十九年五月十五日　毎土曜日發兌　第貳拾二號

此の繪の說明ハ本紙中に在り

The Engraving illustrated in another apge.

東京京橋區南鍋町貳丁目拾壹番地　發行所　績文舍

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學叢誌第二十二號目次

●官報●中外新報十四件●學藝叢談○理學一斑●カリー氏幼兒敎育學の翻譯〔前號の續〕西洋女禮一斑●英語の栞附羅馬字話なし○泰西箴諺直譯●列女傳の春日局〔表藷傳〕○羅馬の婺婦コルチリヤ○烈婦岡谷さわ子〔前號續〕○長山宵子●和書講義○つれ〳〵草●稗史小說○西江月話〔第四回〕●女紅○ワールン氏西洋料理法の飜譯〔前號續〕○裁縫○檸檬水の製法●伽草○母娘より多きことを一度○西洋隱語○考へ物●古今雜話○踏舞會の心得○元祿年間女中儉約の觸○金言摘錄●群芳詞苑詩歌發句文章數件○○閨秀新品○數學答式○新題

明治十九年五月十五日

本誌代價表

壹冊	正價金四錢	此郵稅壹錢
拾冊	同金三拾八錢	同拾錢
二拾冊	同金七拾五錢	同二拾錢
三拾冊	同金壹圓拾錢	同三拾錢
四拾冊	同金壹圓四拾錢	同四拾錢
五拾冊	同金壹圓七拾錢	同五拾錢

但シ東京十五區內郵稅不申請

本舍ハ御注文有之と雖とも前金御送附無之間ハ叢誌配達不仕事に內規相定候に付御注文の節ハ必ず代價郵稅共郵便爲替又ハ通運便にて御送附わらんとを希ふ○郵劵代用ハ御斷り申上候爲一郵便切手を以て代價御送附の節ハ壹錢切手にて一割增を乞

郵便爲替ハ芝區芝口郵便局へ御振込ミ其爲替劵を本舍へ御送附可被下候

但し東京十五區內ハ御斷り無之間ハ引續き配達仕候

明治十九年 女學叢誌毎土曜日發兌表

一月	二日	九日	十六日	廿三日	三十日
二月	六日	十三日	二十日	廿七日	
三月	六日	十三日	二十日	廿七日	
四月	三日	十日	十七日	廿四日	
五月	一日	八日	十五日	廿二日	廿九日
六月	五日	十二日	十九日	廿六日	
七月	三日	十日	十七日	廿四日	卅一日
八月	七日	十四日	廿一日	廿八日	
九月	四日	十一日	十八日	廿五日	
十月	二日	九日	十六日	廿三日	三十日
十一月	六日	十三日	二十日	廿七日	
十二月	四日	十一日	十八日	廿五日	

廣告料定則

一行二十七字詰	壹回分	二回分	三回分	四回分
自一行至十行	八錢	七錢	六錢五厘	五錢
自十一行至廿行	七錢	六錢五厘	六錢	四錢五厘
自廿一行至卅行	六錢	五錢五厘	五錢	四錢
自卅一行至五十行	五錢五厘	五錢	四錢五厘	三錢五厘

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

◎官報

本年四月十日

○朕諸學校通則を裁可し玆に之を公布せしむ

御名　御璽

明治十九年四月九日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文
文部大臣　森有禮

勅令第十六號

諸學校通則

第一條　師範學校を除くの外各種の學校又ハ書籍館を設置維持するに足へき金額を寄附し其管理を文部大臣又ハ府知事縣令に願出るものあるときハ之を許可し官立又ハ府縣立と同一に之を認ることを得但寄附人の望に依り其名稱を附することを得○第二條　寄附金ハ其寄附人より指定せし目途の外に支消することを得す○第三條　學校幼稚園書籍館等の設置變更廢止其府縣立に係るものハ文部大臣の認可を經へく其區町村立に係るものハ府知事縣令の認可を經べし其私立に係る者ハ設置變更ハ府知事縣令の認可を經へく廢止ハ府知事縣令に上申すべし○第四條　凡教員ハ文部大臣若くハ府知事縣令の免許状を得たる者たるへし○第五條　公立學校の用地ハ免税たるべし

◎中外新報

○行啓　皇太后宮幷皇后宮には去る五日群馬縣下舘林へ行啓あらせらるゝ筈なりしが雨天に付翌六日に御順延なりしも猶降雨の爲め去る十日を以て行啓あらせられしやに承はりぬ

○奏任教官　其筋にてハ今度官立學校の奏任教官にてハ私立學校の教官となることを得さることに決定せられしやに聞く

○共同女子職業學校　永井久一郎氏等の發企にて今度題號の如き學校を神田邊に設立せられ女子適當の職業を教るかたはら修身和漢英文筆算等をも教授さるゝとの事

○チヤンブレイン氏　帝國大學の御雇教師なるチヤンブレイン氏ハ其筋の命を受て羅馬字の讀本を編纂中なるが右ハ全國小學校の教科書に充らるゝものなりとか云へり

○高等師範學校現員　高等師範學校生徒の現員ハ都合百十九名ありて内中學生ハ五十三名小學生ハ四十名師範生ハ二十六名なりと

○建物賣渡　舊工部大學校の建物ハ今度二十万圓を以て學習

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

院へ賣渡さるゝ由

○帝國大學授業料規則追加　同大學に於ては分科大學の學生々徒授業料徵收規則へ左の附則を追加せり

學生々徒の便宜に依り數月分の授業料を前納する事を得但前納の月數未た盡さる前に臨時退學する時ハ倘前納に係る金額を返附すべし　（五月十日官報）

○尋常師範學科準備通信講義會　銀座一丁目忠愛社書店にて今度題號の如き一會を設けられ文學士理學士幷に和漢學者を聘して小學師範學科の試驗師範學校入學試驗等に應ずるの學科を講ぜらるゝとぞ

○商工徒弟講習所　仝所ハ先頃より修繕中なりしが最早落成したれハ近日のうち生徒二三百名を募集せらるゝと云ふ

○幼稚園　高等中學校附屬の幼稚園ハ舊校舍を取毀ちて地ならしをせられ構内數百坪の所へ藤の棚を架し數種の花卉を種付て頗る美景を添られたり

○有志競爭揮毫會　上野繪畫共進會にてハ去る十日より來る十九日迄有名の畫家毎日三名つゝ出席して縱覽人の需に應し染筆料を要せす揮毫せらるゝとぞ

○小蘋女史　畫家野口小蘋女史ハ此の程神田區裏神保町五番地へ移轉せられしと云ふ

○中學入校志願者　第一高等中學校にてハ去一日より入學志願者を募集中なるが已に英獨佛の三學志願者ハ四百名近くに及びたる由

○愛讀諸君に告く　本紙是迄每號女學叢譚の一欄を設けて論文を掲載せし處近來ハ他に好種子多きを以て其掲載を休めたり最論すへき須要の事あるに際してハ必ず論をへられハ讀者諸君請ふ尤むるなくして可なり

◎學藝叢談

○理學一斑

〔緒言〕　我が邦の教育はこれまで漢學を教ゆるを以て主要となし來りたるがゆゑに世の開明に必要なる理學の思想に乏しきこと已に識者の憂ふるところなりされば理學の教育は今日の急務にして人の父母たるもの意を爰に用ゐざるべからざるは今更ら喋々するを要せずと雖も世の人或ハ理學を以て單に西洋學なりと云ひて恰も日本の學問にあらずとするが如きものなしとすべからずこれ全く漢學の狹隘なる思想より來るところの見解にして理學の何物たるを知らざるか故なるのみ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

抑も〳〵理學といへばその區域甚だ廣しといへども概してこれを云へば天地自然の法則を研究するの學問にしてこれを世界の學問とこそ云ふべけれ何ぞ單に西洋學なりと云ふを得ん假令ば空氣ハ幾分の炭素と幾分の酸素より成立つと云へハ東京の空氣も倫敦の空氣も米も佛もミな同一にして異ることなかるべく水に熱を與なる時ゝろの量を増すといへば万國の水皆同じく巴里の動物は支那の木石なりと云ふべからず日本の草木は紐育の魚鳥なりといふべからず獨逸の金は日本の銀なり印度の月は日本の大陽なりとすべからず人に五感ありと云へば英人も佛人も印度人も支那人もみな同じく五感ありされば化學といひ物理學と云ふも動物學と云ひ植物學といふも天文學地質學と云ひ心理學と云ふもみなこれ世界普通の學問にして何れの國何れの地方の學問なりと云ふべからざるも明らかなり却て漢學をこそ支那の學問なりと云ふを得べけれ何ぞ理學を指して單に洋學なりと云ふを得ん爰に理學の何物たるを説き明さんとするに當り彼の有名なる生物學者ハックスレーの著ハせる理學初歩を鋪演し聊か記者の鄙見を交じへ以て家庭敎育の萬分を補ハんと欲するなり固より大方の覽に供するにあらざれば學術上の名稱といへども可及通俗の語を用ゐ只その意の解し易からんことを勉めたればその拙陋を咎むることなくんば記者の幸ひなり

第一章　自然と理學との事

〔第一節〕感覺と事物との事　我々もまたその一部分たる世界の事物を何事にても知ることを得るハ即ち我々の知覺を以て知ることとなり物に感じ物を聞き物を嗅ぎ或ハ黑闇ならざるときハ物を視また時々物を味ふなど〻云ふ是れなり斯くの如く知り得るを感覺と云ふ

この感覺を別々にいへば即ち我々の常に物に感じ物を聞き物を視物を味ふと云ふことにして譬へば香ひにてハ香水を嗅ぎ音にてハ馬車の音を聞きまた目のまへにあらハるゝものにてハ樹木を視ると云ふがごとく何々と知りたるを物あるひハ事といふ

〔以下次号〕

○カリー氏幼兒敎育學の翻譯（前號の續き）

〔第二節〕第一の時期は家庭の敎育其本分なる事　第一期即ち嬰時期の間その兒の敎育をなすに家庭は天然の敎場にしてその兒の心身の構成強健となり衆兒雜踏する小學校に托するに足べきほどの資格を備ふるまでは終始渝はることなく柔和なる心掛けを用ゆること必要にしてこれ啻にその兒の幸福たる

のみならずの生命上に於て最も必要なることなりかしこの時期に於ては尚ほいまだ直接の教示を受くるほどの度に達せざれども生れしよりいまだ言語を解すること能はざる前に已に事毎に外物の指衝によりみづから固有の諸能力を働かしむるの方便と煽動とをなし自然の教育を受くること甚だ繁多なりゆゑにこの時に當り父母の務めとするところは只この諸能力の活動の妨害物を除きその活動を自由ならしむるにあり然れどもその兒益々發達して言語を解し稍々見聞廣くなるに至りても父母の語を添へて外界の諸事情より學び得るところのものを益々明良ならしむべしされバこの時期の間は家庭は教育上の本陣にしてその兒の意思を統治するの場所なりと云ふべく且つ嬰兒の心思いまだ定らずしてははなはだ移り易きがゆゑにこれが責任に當らざる可らず

〔第二節〕近時の幼兒學校法の原理　各家庭に於て幼兒を教育する最も必要なる職務を執るに種々の事情ありと知るべしこの職を執るに機會と才幹と順序ありまた家庭において教育をなすに當り次ぎの單純なる心得なかるべからず乃ち常に切愛なる欲情を抑へるの精神ありて各々幼兒の性質に從ひ忍耐して教導をなしすべて幼兒の自然に得て最も熟練したるものより成り立たんことを勉むべし然る上はこの外に父母教育上の職務に立ち入ることなくまゝ他人に托すべしとも勸めざるべしといへども家庭の教育上この機會と才幹と順序とを欲き教育を怠るの社會ありとせよ假へバ父母は日々生活の爲めに働きて身體ともに勞れ遂にハ疲勞のために愛情までも薄くなるものありまたは不學無識にして已が子弟を教育すべき責任あるを知らずあるひは教育の方法を知らざるものなりあるひはまた不善惡行を以て汚れたる家屬などにては幼兒もまた日日その汚れたる鄙陋の空氣を呼吸するものなしとせざるべしかゝる諸家屬を集めその幼兒をしておの〳〵空虚なる心に意思を充たし生家の鄙陋なることを除くところの他の場所に移さしむればこの社會の利益となるのみならずその子弟等の爲めに上なき慈善なりと云ふべし或ハまた斯のごとく極點に達したるものを擧げて論せざるも尚ほ中等社會にして幼兒教育の主意を充分認識せざるところのものあるべしかゝる社會の子弟をして善良なる主義の行れ合理の方法を以て教導をなすところ乃ち日々幾時間幼兒を集むるの設立ある所へ移す時はまたその社會の利益少なからざるべしかゝる社會の幼兒を全く家庭に止め置くよりも一層善良にして行届きたる教育

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

を幼兒に與ふることを益々充分なるに隨ひ遂にはこれ等の家屬までを敎化するに充分なる餘地ありとすこれ近時の幼兒學校法の原理なり

（以下次號）

○西洋女禮一斑

一友人とゝもに歩行をなすにわたり途中にて他の友人に出遭ひともに歩行することあるも相互にその友人を紹介なすべからずこれ自家へ來りあはせたるものを紹介するよりも倘はあしゝとす

然れども紹介の禮法に於て特別なることあり踏舞會あるひハ踏舞の催ほしあり夜會などにおいてハその家の婦人ハ前以て承諾を得ずして婦人に男子を紹介することを得べしされども最初ろの婦人の踏舞をなすを好むや否を確かめ置かざるを得ず然らざればその婦人の踏舞するを好まずして承諾せざることあるべしあるひハ四班舞などをなす時に至りその婦人男子の手を取らざる等のときハその男子ハ至てまの惡しきものなりこれ等ハろの家の婦人に於て注意すべき事なり

また前以て承諾を得ざるも姉の弟を紹介し母のその子を紹介するハ妨げなしといへどもこれハ自家の家内中他にその客より目下のもののなきときに限るべし

（以下次號）

◎英語の栞 附羅馬字はなし

○泰西箴諺の直譯

（甲）㊀汝（が）㊁彼の㊂皮（を）㊃賣る㊄前に㊅熊（を）㊆捕へよ

（乙）㊀危難㊁過ぎ（て）㊂神㊃忘れらるゝ

（丙）㊀鷲（ハ）㊁獨㊂飛ぶ㊃然れども㊄羊（ハ）㊅一所に㊆群る

（丁）㊀僞なる㊁友人（ハ）㊂公然なる、明白なる㊃敵㊄よりも㊅より惡しく㊆ある

MAXIMS & PROVERBS.

泰西の箴諺

（甲） Catch the bear before you sell his skin.

Catch ㊆ bear ㊅ before ㊄ you ㊀ sell ㊃ his ㊁ skin ㊂

〔意譯〕 獸をその皮を賣る前に捕らへよ

（乙） Danger past, God forgotten.

Danger ㊀ past ㊁ God ㊂ forgotten ㊃

〔意譯〕 危難過ぐれバ神の事を思はず

（丙） Eagles fly alone, but sheep flock together.

Eagles ㊀ fly ㊂ alone ㊁ but ㊃ sheep ㊄ flock ㊆ together ㊅

〔意譯〕 鷲ハ獨り飛べども羊ハ共に群をなす

（丁） Faise frlends are worse than open enemies.

Faise ㊀ frlends ㊁ are ㊆ worse ㊅ than ㊄ open ㊂ enemies ㊃

〔意譯〕 僞友ハ公敵よりも惡し

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

TEKI WO AISU.

Sake wo konomu otoko arikeri. Takuwae sae areba sake wo nomu ga yueni, tuneni mazusiku kurasikeri. Aru hi takuwae mo tukite sukinaru sake mo nomu koto kanawazu; kyō koso wa itumo busata suru yasokyōsi no uti ni itari, heizei no wabi-koto sen tote, aru yasokyōsi no uchi ye itarikeru ni, daidokoro no sumi ni kakusi aru *burandy* no bin wo mituke, rei no yamai okori, sikirini nomitaku nari, hito no minu wo saiwaini kono bin wo toridasi kuti-tugini nomikeru toki, usiro no kata yori kyōsi no koe nite: "yā, sorewa omaye no tame niwa *taiteki* nari," to ieba, konata wa "hai, kyōmon no naka ni *nanji no teki wo aise yo* to arimasu kara kono tai-teki wo *aisimasu*," Kyōsi wa kuti no uti nite, "omae mo yappari waga tomo ja.

○春日局 (表壽傳)

三代將軍家光公の御乳母なりし春日局と云へるハ明智日向守光秀の家來齋藤内藏助利三が女ょして幼名を福子と呼び母ハ稻葉刑部少輔通明の女なり當初福子稻葉佐渡守正成の妻となり丹後守正勝七之丞正定内記正利等を生みたりしが佐渡守ハ筑前中納言家を去りしより偏に義を重して何れへも仕を求めす本國濃州ょ引籠り居れり時に關東にてハ竹千代君誕生ありて切りに然るへき乳母を京都に求めらるゝと雖も怖れて召ょ應するものなく粟田口ょ其札を建られたるを聞きて福子ハ之に應せんとわざ〳〵京都に上りて板倉伊賀守勝重に依り其の事を乞たりしが勝重ハ其良人の武名と云ひ又其父の武名と云ひ倶に一方ならさるを以て直に許諾し關東にぞ下されたり其後に至り關東にてハ佐渡守をも召出さんとせられしに佐渡守ハ妻の脚布に包まれて出身いたそが如き士にあらすとて承引せす其の上聊か存寄ありと福子を離別に及ひ丹後守兄弟を其が許へ送り越せりこれより先き福子ハ佐渡守の家にありし頃一夜三人の盜賊押入しに其二人を斫殺して一人をば追拂ひし

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

事あり其勇氣男兒も及ばさる所ありて竹千代君の世の明君と仰かれしも偏に此の福子の力にこそ由りけれ元來竹千代君ハ大御臺所さして愛し給ハず國松君をのみ寵み給ひし故竹千代君の方ハ威勢日に衰へゆくを歎き福子ハ竊かに伊勢大廟へ詣ると云ひなして駿府に到り右の趣委しく侍女英勝院尼に頼て家康公へ言上せしかば其後家康公放鷹の爲め江戸へ下り給ひて竹千代を世子とするの上意あり是より衰へたる威勢も日に増し月に加ハり隨つて福子の威權も中々盛んにて或日朝餐食らるゝ折御膳部の意に應せぶれぬとて食べ給ハさりし事ありしが福子ハ之を聞て松平伊豆守を呼び貴賤ともに二時の食事（此頃ハ食事日に二度なりと見ゆ）ハ腹に滿る程食べねバ生命ハ續かぬものなり今公方家とて同しく是れ人なり況て公方樣と稱らるゝ君にして其御膳部ハさまで餘計なくとも宜しけれど飯に疎略ありてハ相ならぬ事なり然るに疎略あるハ賄ひの者の無念なれば自今ハ飯を七種づゝ炊がせられよ其中一種ハ召上らるゝの飯あるべし斯くてハ費も多かぶんやう思ハるれど左にあらず殘りハ皆下々の者に頂戴せしむべし御次きなる扈從以下坊主の輩ハ晝夜勤勞するもの故二食にてハ中々耐へ難からん是れ等に賜ハる時ハ一にハ其の辛勞をも慰むべしと福子申したる旨役人中へ通達あれ上へハ我等宜しきやう申上へしと云はれしより七竈を設けらるゝ事となりたりまた諸大名の參觀交代の節惣女中へ金銀を贈る事なりしが酒井讃岐守忠勝執權の折より表立たる女中へのみ贈ることに仰出たされしを福子ハ酒井初め諸老臣列坐の時を見て云ハれけるにハ各方ハ諸大名の爲バかりを思ふて女中の難儀を思ひ給ハざれども小給にて奉公致す者さえ晴着の小袖一枚を拵ゆるよ各方の具足一領を拵へらるゝ程の資を要するものなり然るにこれを停止されてハ女中の難儀甚しかるべく我等こそハ三千石を拜領すれども御蔭ありて三万石程の暮にあなれば女中小人數あらば我等分配も仕つるべしと雖も如何せん大勢なれば其儀も屆かす這ハ物の手始なるか故に申すなりと是よりして每年霜月師走の中よ御合力金として其格式に應し百兩又ハ五六十兩宛御中居御半下に至る迄下さるゝ事とハなりぬ總て御本丸の女中ハ福子支配なし殊に諸侯の女子御料人方の登城あれバ御廣間に於て對面し夫く々の縁組願の內談等を聞き取究むる等の事迄此福子司りしと云へり

（以下次號）

○羅馬の嫠婦コルデリヤ

伊太利國羅馬の首府にコルデリヤと云へる一個の嫠婦ありけ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

り其の夫なる人ハ先年はやくも死亡りてあとにハ二人の小兒を遺せしが此のコルチリヤハ元來婦徳を具へたる人ありければ良人のあらざるもありし日に違ハそもとより富めると云ふにもあらざれどまた貧しくも暮さす世間の交際欠ぐてとなく家政もいとよく整ひて小兒を天晴の者に仕たてんと其の教育に頗ぶる意を注ぎ敢て怠りなかりけりある日の事かとよかねて知るべなりける或る富豪家の婦人音なひしに四方八方の談話の末富豪家の婦人ハ己が富める事を鼻にかけていとほこり顔にコルチリヤに向ひ妾ハ久しき間心にとめて種々の寶物を聚め今ハ澤山に藏することなるがおかん身も諒めて何か奇寶を所藏せらるゝ事ならん願ハくば

三百四十八

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

一覽仕つりたしと乞ひたりしにコルチリヤハ此の似非婦人がと心に思ひたればはかぐしき答へもせで顧みて教育の事など物語なし居たる中其小兒なるチベリユス、カウスの二人今しも學校より歸り來て挨拶の爲め其の客室に入り來りしかばコルチリヤハ之を指して富豪家の婦人に向ひおん身の先刻妾に尋つねられし寶とハ妾別に所持も仕らされども但た一の最も貴とき寶こそ所持仕るなれ卽ちこの小兒なり一朝其の光輝を發揚する時にハ遠く四海の外を照せば金銀珠玉億万個の寶もこれにハ及ぶこと難かるべしと富豪家の婦人ハ之を聞き大に赤面し何とも云ハで悄々として立かへりしと云へりされバ此のチベリユス、カウスの二兒ハ果して後日に至り其名を世界に揚げけるとなん世の婺婦にして小兒を育成るの人ハ宜く以て龜鑑とすべし

○烈婦岡谷きわ子　（前號續）

家の内のものどもハ折節外に出しもわりわるハ夕のをし物のあとの事などに心入れてくりやの方にはなれ居りしもわりて更にかゝる事とハゆめにも知さりけるにきわが閨の方に當りていたくうめく聲の聞えしかば下づかひにてありし女いぶかしと思ひていそぎ行て見るにきわが鼻のわたりおびたゞしく血に塗れたりしかハわやしみてやゝとおどろかしけれど更にいらへもなしこハいかにと大聲にさけびければ其時にぞ家の内のものどももみな〳〵馳せ集りにけりさて見るに何かハたへてあるべき喉にハ刀を鍔もとまでさしつらぬきてさきは深く腹のうちまでつき入り両手ハいたく血にそまりてをり夫友紀もわかぬさまにものへまかりけるが驚きあハてゝ立かへり取敢す醫師をよびなどして万におつかひけるに早く息ハたえ果にけりいはん方なしさしてもあるべきならねバ其よし司につぶさに聞え上てなきからをば其さとの善長寺といふに葬りける一家の歎きのなしなといふもおろかなりかの長四郎もひとやにめし入られてたび〳〵の責ありければはじめこそとかく云ひのがれてまことのとをばあかし申さゞりけれど遂に罪に陷入りて三年の懲役と云ふ事に定りにけりとぞこれをつら〳〵思ふに女の身まろいと悲しきものハあれいかなるまがことにか斯るしれものにしも思ハるゝ身となりてはてハ命をすつるなかだちともなりにしことよかゝるとむかしも今も多かめれどきわがかくいさぎよきしにを遂たるハいにしへ袈裟が夫の命にかはりし死しにもをぢすとてそハいふべけれさてもなほかのしれものが行末いかならんとそらん死したる人の

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

たましひも深くおもひ入たりけんこのまゝよしもえあらじこの
し今こそハ見めなどみな人いひあるとや

烈しかるをかのやがたの霜のよにたてさる心松ハ見すらむ

○長山宵子　菟道　春千代

宵子ハ水戶の士長山七平の女にて奉行職師岡左工門綱治の妻なり夫婦のゐとひ睦まじく奴婢を顧みて惠み深く總て內を治むるの婦德うるハしき中に善助綱常と云へるハ下婢の生む所なるを己か子となし其婢をよくいたハりて湊村なる某へ嫁しめ綱常を愛育そると我所生に異ならす其病ニ罹りたる時にハ自ら醫藥を嘗め夜ハ神崎寺の觀世音へ跣參りをなして祈りけるなぞ世の異母の企及ふ所にあらす其長するに及ひてや一婢を擇ひて綱常ニ侍らしこれにも裁縫なにくれとなく女業を敎えけり其の心ばせの斯く世にすぐれたるのミならす容色もいとうちあがりてよかりけれバ綱治の久しく召使ふる若侍れはけあく宵子に思をかけ或日綱治の他行せし留守を窺ひて其の閨房に忍び徃しを宵子ハ樣々ニ說諭しけれども肯入るゝ氣色なきニ今ハ是迄なりとて準備の短刀ぬく手も見せす甲斐々々しくも斫付たれば若侍ハ聲をも得立す死でけり然るに宵子ハ少も噪がす傍の衣裳打被せてさりげなくものし綱治の歸を待て始て似箇く々と物語りしとあん健なげの擧動にこそ

宵子ハ正德二年七月廿四日享年四十二才ニて死去り江戶駒込の大乘寺と云へるに葬られ妙珠院月澄日冷とハ諡せられぬ

◎和書講義

○つれ〳〵草　　橘　道守述

第十二段

同じ心ならん人と。しめやかに物語して。をかしき事も。世のはかなき事も。うらなく。いひなぐさまんこそ。うれしかるべき。さる人あるまじければ。つゆたがはざらんと。むかひ居たらんハ。ひとりある心地やせん。

〔全旨〕我と同しき。眞心なる友ハ得がたきをいへり。

〔語釋〕しめやか　閑靜○をかしき　面白き事也。さて今俗に。嘲り笑ふべき事を。をかしといへと。雅言にハ。心にしみて。面白しと思ふ事のうへにハ。善にも。惡きにもいへり。例之ハ。かなし。あはれ等の語の。可愛事の上にも。可レ愛事の上にも。いへるか如し。○はかなき事　世の定めなきことと○うらなく　心に包むことなくの

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

意なり、心をうらといへり。うらさ悲し。うらさびし。の如し

〔講解〕心合の友を。静かに世上の。面白き事。常なき事など。思ひよるまゝに。互に隔てなく。談りて。心を慰めんは。嬉しく有らんが。左樣の人は。有べきならねば。友を得るも。互に少しも其心に。たがはぬやうにと。言語を愼て對ひ居るは。獨坐の心持がするならんとなり

◎稗史小説

○西江月話　第四回

さても陳小四は全く心を瑞虹に奪はれて水手の者等が深き弃計わりし事を知らず翌日十時頃に至りて起出見れば一人の影だに見えざるにぞさては他等物を盗みて逃去りけん先つ物を撿見んとて夫々艙の中を撿たりしに果して些ばかりのやくざ物と書帖の類のみ殘しあるに憤ると甚しくさりとてこの事を語ふべき人もなければ敢て口には云はず只心にのみ思ふやう他們は自分が此女を留めたるより事の露顯に及んとを恐れて悄然逃去しなるべし我も如今一人となりては船も行と能はず住めて此に永くわらば策の得たる者には非さるべし上陸して人を雇ひてん敷倘し人烟稠き處に到りなば這女必條叫び出さんさすれば我性命も夫迄なり如かず草を斬て根を除んにはと一柄の斧を提け來れば瑞虹は此時牀上にありて泣き居りしが面には涙痕の斑々たれども却て千嬌百媚を覺えさすがの强賊も神蕩け魂迷ひ斧持つ腕も痿果て撲的ろこに落しつゝ泣入る瑞虹を抱き上けたわけき擧動にぞ及びける憐むべし嫩蕋嬌花怎んぞ風狂雨驟に當り得ん恣に其身を汚されたり已にして陳小四は瑞虹に食事を與えんと艙の上にゆき火を打ち飯を炊くうちにも又思ふやうは我れ若し這の女に迷ふてあらば性命もさだめて取らるゝに至らん若ず思切て他を殺さばやと然れどもまた手を下すに忍びず幾回か思ひかへし遂に縛りて水中へ投込む事に決心し一條の索子をもつて瑞虹の處へ到り見るに瑞虹は飽て身を汚されてやう〳〵に衣服を整へ牀の廻に坐りて泣きつゝ復讎の策を考へ居たりし折なりければ不意に出てゝ聲をも立得す縛られたり陳小四は之を直に投込むかと思ひの外またもあやしき擧動に及びし上棍棒をもてしたゝかに打据ければかよはき女のいかで耐らん忽ち息へ絶けるにぞ最早水中に投込ひにも及ばすと些ばかりの物を携え船を捨てゝ上陸し去れり然るに瑞虹は此の時全く死きらす一時氣絶したるに

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ありけれハ暫くして息吹き返せしも身体痿しびれて動かすとも出來す空く涙にくれて臥しつゝもろのかみ阿爺が我か諫めを容れ給ハゝかゝる今日の憂目ハ見まじきものを併し今更云ふも詮なき事なればこれよりハ讎を復す事よ務むべしとて轉た思ひ轉た歎き愈よ想ひ愈よ哀む折しも忽ち船体よ何やらん烈しき響して觸るゝものゝありけれハ驚き耳を側つる時人聲聞えてこの船ハ人影の見ゆす聲をも聞かさるは是れ如何なる船ぞと云ひ居れり瑞虹ハ是れまた強盗の同夥か然らずば捕盗の船かといろ〳〵に思ひ居る中數人こなたの船に乘移り來れば覺えず強盗と叫びたるに衆人ハ聞えすやありけん何れの官府の船なるか知らねど刧掠せられて一個も留めざるハ誠に憐れにも惜き事なりしと云ふをば聞て瑞虹ハ漸く強盗ならぬとを覺り聲げ起て助けを乞たるにぞ衆人ハ其聲をたよりよ艙の中よ入り看れば一個美貌の女子海棠の雨に惱める風情にて牀の裡に縛られ居れり於是て先つ其索子を解きおん身ハ何人なるやと尋るよ瑞虹ハ涙を垂れ父の官爵貫籍より遭難の顛末を細かに說き出し委屈を受て伸るとなければ何卒憐れに思ひて妾を引つれ裁判廳へ訴へ出强賊を捕拿て法に正さるやう取計ひ呉られたしと合掌なして賴みたるに衆人ハ之を勞りつ我々主人持におなれば主人に相談して後ともかくも計ふべしとて皆先づ本船へぞ立歸れり

◎女紅

○ワールン氏西洋料理法の飜譯　(前號の續き)

〔魚類撰び方〕　魚類の生きのよきものは眼の色よ光澤ありて鰓の色赤く且つ美麗なり魚類は格魯兒化曹達(食塩)を以て保藏するとを得べしと雖どもろの味ハ生魚に及ばざること遠し

鰈は厚くして半面の色黄白色即ち濃き牛乳の油の色あるを生きのよきものなりとす

鮭および鱒の類また大口魚は頭ら少さくして肩のあたり甚だ厚く尾の小さきものを撰ぶべし鮭の生きのよきものは光澤ある赤色にして鱗のいろにも光澤あり

鯡、鯖等は極々新ふしきものにあらざれば決て買ふべからずまた一日も保藏しをくべからず大口魚および比目魚は二十四時間位ゐ保ちをくも妨げなし

鰻は必す生きたるまゝ求むべし蟹および蝦は重くして硬きものをよしとそ蝦の生きたるものは甚だ固くろの売開らきたる

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

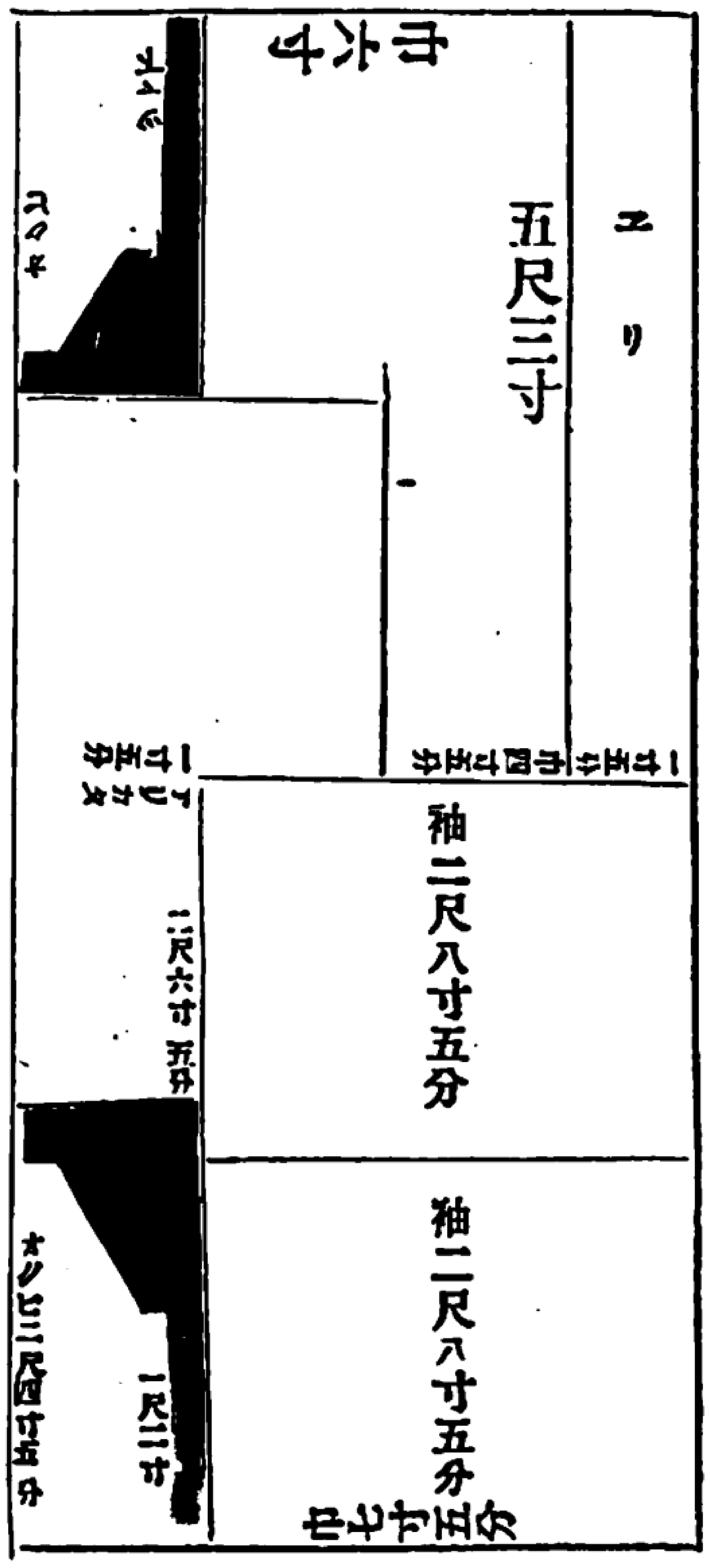
ものは死したるなり

〔鷄卵の撰び方〕　鷄卵を振りて見るにコツ／＼鳴る音のそるときは古きものなりといへり然れども之を知るに最もよき法は器物に水を入れ鷄卵をその中に入れて水中に沈み横に浮ぶときは新らしきものにして竪てになるときは古きものなり斜めになるときは充分新らしくはあらざれどもカステラ抔に用ゆるには妨げなかるべし

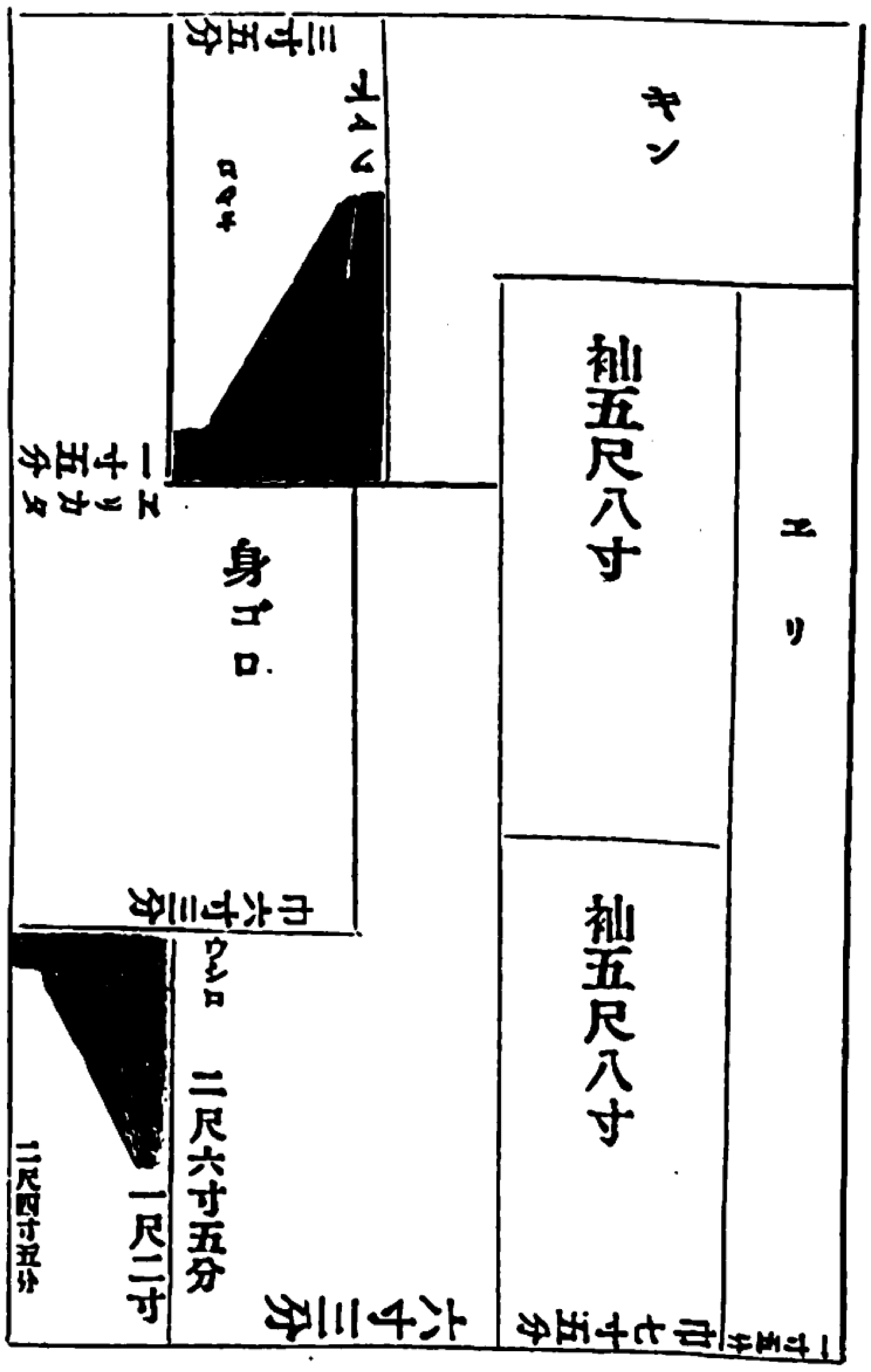
（以下次號）

○裁縫　三身裁方

三ッ身一尺二寸巾裁方は長一丈一尺巾一尺二寸にて丈二尺六寸五分袖一尺四寸二分五釐圖左の如し



又全く二尺巾紋織裁方は長七尺九寸五分巾二尺にて丈二尺六寸五分袖一尺四寸五分圖は



○檸檬水の製法

夏季になりて喉の渇きを防ぐには檸檬水に若くものなし其製法は酒石酸一オンス檸檬精ニガラム白砂糖四ポウンドを混和しコップ一盃の水に二匕斗りを投ずべし

◎御伽草

○母娘より多きこと一度

淺草藏前邊に一商買あり其の家の女房は今茲十六の娘をも持る歳をしながら下谷邊の鈍帳芝居の俳優に恍惚て烏の啼かぬ日はあるとも芝居見に行かぬ日はなきほどなれば之を見習ふ娘も全く芝居の俳優に懸想して繁々見物に赴く處より母は親の

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

見幕を以て或る日娘を膝下へ呼びつけ叱つて云へるやうハ「コレお七お前ハ那の俳優面に惚こんで夢中になり頻りにはりこみにゆくとか世間に專ら噂さるゝがお前に限り決してそんなみだらなことハあるまひとハ思へどそれも餘りお前が切々見物よゆくからの事だ私が十ぺんゆくうち九へんまでハお前を見受るうら以來ハ些愼んで行うぬやうにせよと娘ハ聞て「おつ母さんのおつ仰ると十ぺん行く中に九ぺんまで見なさるなら私よりもあなたの方が一ぺんだけ多く行なさるでハありません歟

評爲人母者欲已行不正而正人行竟有過如斯返撃可愼哉

○西洋隱語

余ハ口もなく手もなくまた脚もなけれど人の爲めに使ハるゝ時ハ口ありて云ふか如く手ありて行ふか如くまた脚ありてゆくが如く万事に調法がらるゝものなりされども時ありて人の爲めに使ハれず自然に働き出すときハ却て人間に害を及ぼし忌み嫌ハるとあり

○考へ物

爰よ三字名の一物あり上の一字を省くときハ口の代理をなすものゝ稱となり中の一字を省く時ハ家むきの仕事となり下の一字を省く時ハ二足動物となり三字を備ふる時ハ婦人の頭に用ゆる一具となるものあり何なるや

○第廿號字謎考物の解當者ハ左の如し字謎(姫)下總富樫貞姐番町堀光姐大坂山田末姐芝吉村玉姐同長野春姐本所山下兼姐横須賀鈴木藤姐銀坐吉川今姐廣嶋田中安姐考物(ツルミ)山田末姐長野春姐吉川今姐鈴木藤姐田中安姐山下兼姐堀光姐

◎古今雜話

○踏舞會の心得

〔第一踏舞會を催ほす用意の事〕　饗宴においてハ食卓の大小により來客の數に限りあるが如く踏舞會に於てもまた踏舞室の廣さと狹さとによりてその數に限りありと知るべしすべて來客ハその期に至り不參そることあるも計られざれバ催主より招待の案內をなすに當り豫て饗應せんと欲する人員よりも少し餘分の案內をなしおくべ去然れども餘りに多人數に過ぐるときハ踏舞を好むものゝ歡樂を妨ぐることありまた餘りよ少數なるも興薄きものなるが故に催主たるものハよく〱注意して加減すべきことなりけり

踏舞室ハ同時に二箇の四班跳舞(クワドリル)あるひハ二箇の圓舞をなすに便利なるが爲め幅よりも少し長さの長き室を撰ぶべし正方形の室ハこの便利なしくまたあまりに長くして幅

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

の狭き室ハ四班跳舞およひ田舎踊りをばなし得べしといへども他の蹈舞をなすに不便なり

蹈舞室の首席ハ奏樂所に最も近く休憩室の首席ハ食室に於けると同じ所にして通例いり口より最も遠きところをその室の首席とす大体蹈舞ハ首班（英語のコープルを班あるひハ連と譯しをく）の指揮するものあるが故に蹈舞者ハ各々着席する前にその室の首席を知りをくべし

蹈舞室の牀板を撰ぶこと必要なり私宅などにてハ絨氈の上によく延ばして平滑なる細麻布を鋪きたるを最も宜しとす

蹈舞者の爲めに空氣の流通をよくして燈光を多くすることまた必要なり

また音樂ハよきが上にもよからんことを勉むべし蹈舞會において音樂を撰ぶは饗宴において酒類を精撰すると同じく最も必要なることゝ心得べし

蹈舞會の招待狀（ノートと云へる手紙の体裁にして後に記載せり）は催主の婦人の名を以て發し最良のノート紙に書くべし美麗なる印刷をなせし用紙を用ゐあるひも金色銀色を以て印刷したるものありて文房具店に就て得らるべし鍍金縁の紙を用ゐ得べしと雖も他の色を着くるべからずまた封蠟は極めて鮮明なる色のものを用ゐべし

蹈舞會の招待狀は一定したる夜より少くも十日前に發すべくして二週三週あるひは一箇月前にこれをなすも妨げなし

（以下次號）

〇元祿年間女中儉約の觸

元祿十二年十二月女中衆つほね〳〵けんやくを用おごりがましき義無之樣に致さるべき事　一惣て祝儀取かはし等成たけかろくいたされたとひ御加增など被下候節も祝儀返禮分限さうおうにずいぶんかろくいたさるへき事　附寺社がたへのきしん物又其法事等かろくいたさるへき事　一衣類めなれ候分ハくるしからず候たび〳〵けつかうにあらためらるゝ事むようにいたさるへく候拜領物ハかくべつの事　一惣てふるまい等かろくいたさるへく候月番あけのふるまい無用にいたさるへく候御普請などの節ふるまい無用にいたさるへく候尤音信等いたさるまじき事　附せいしにも仰付られ候通御奉公人きもいられ候節しんるいゑんじやたりといふともせんわくのぎんみひいきがましき儀無之樣彌相守らるべき事

覺

一音信贈答嫁娶之規式饗應等萬事儉約を可用旨前々より每度

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

被仰致候彌以て右之趣急度被相守猶又此度被仰出候條々左之通相心得可被申候事　一婦人衣服之義此度万石以上へ被仰出候趣に准し彌よ輕く可被相心得事一手道具たりとも黒塗輕き蒔繪に過べからざる事　一長持眞黒塗無用溜塗本地を可被用事　一妻女乘物黒塗星金物或ハ靑漆ござ包ハ勿論とろめん包可被用也眞の黒塗幷蒔繪のし金物天鵞絨純子類にて包候義可爲無用　同挾箱蒔繪紋致すべからざる事但塗物等新規よ被拵候儀右之通可爲事　一夜具蒲團幷貝桶挾箱之覆繻子純子繻珍以上之類可爲無用事　一長持屏風箱等の布ハ木綿たるへき事　一婚姻の行列供乘物三挺に過ぐべからざる事　一結納之儀小袖一重帯貳筋二種壹荷を限るべき事　一祝儀の取かわし刀脇差ハ代金五枚以下巻物は紗綾縮緬の内二三卷樽代ハ金五百疋銀壹枚に過べからさる事　一饗應之儀祝儀之節ハ二汁六菜を限り常の參會にハ一汁四菜に過へからす但香之物ともに右之數なるべし惣て吸物肴ハ料理の菜數に準し省略すべき事

右者五千石以上三千石或ハ千石五百石夫々分限を相考へ輕重あるへし猶又小身の輩に至ハ別て省略いたし可取計之候以上

○金言摘錄

薰蕕不同器梟鸞不接翼　劉孝標辨命論

德日新万邦惟懷志自滿九族乃離　尙書

褻人不忘起盲者不忘視　前漢書

作德心逸日休作僞心勞日拙　尙書

玉不琢不成器人不學不知道　三字經

君子之接如水小人之接如醴君子淡以成小人甘以壞　禮記

◎群芳詞苑

○里卯花　東京　宮本　貞子

もしほくむ浦の里人まよふらんこゆ波かゝる峯の卯の花

○いふへにかべる厂を見て　同し人

大かたの花の盛りもまたすしてつきに鳴〳〵かへる厂金

○春興　東京　阪井和歌子

一傘來遊上野山。俗塵消去白櫻妍。乃公別有觀花眼。不愛晴天愛雨天。

評　雨中花却有興記者亦愛之

○客亭偶吟　西駿　江南　島生

未知何日賦刀頭。思往感來暫叵休。勿怪先生常早睡。夢中還與故人遊成句

○春花　國字詩アカサタナの韻　九段　藤田　治子

ふものわしさのもきしもれ　よき花さかすもとひぞや

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

枝れをからすためならじ　こらへ忍へよも〻さくら

〇同イキシチニの韻

くるしみあれば後つゐに　たのしみ來るものぞかし
はるにひらける花を見よ　みな雪しもになやむめり

〇園中怪石（田居小景記第二）河内　鉄心居士　橋本

園中多奇石。或如象鼻。或如虎蹲。或又如怒猊。俯仰百變。詭狀不一。思使婦女嬰兒一見。毛髮皆竦。石之奇觀。於是乎極矣

〇閨秀新品

〇藤花　東京　宮本　貞子

藤の花咲そめしより水のおもよむ〻さき匂ふ波そ立ける

〇同　東京　溝口　久子

紫のくもとろ見ゆる我宿のたなにかゝれるふちなみの花

〇早蕨　東京　樫村　瑛子

早蕨の峯よさす手なりけり

〇汐干　備后　藤井　惠美

春らしう磯にも一とつ櫻貝
主從のへたてもなくて汐干狩

〇春日郊行

終日逍遙伴落暉。裁詩花下暫停騑。濟香移袖歸來處。得意鮮姸月獲扉。

〇祝學友及第文　東京　西村　晴子

賤妾晴子再拜致書于某女史膝下。女史曩日謂妾曰光陰百代過客浮世如夢今日不學而何日學今年不學而何年學況生遭遇于日進月化之明治聖代不能盡妻人之義、母人之務徒男子之玩弄物而止則與禽獸何撰是豈可堪遺憾哉當時妾竊服其高說矣爾來燕來厂去而女史入于高等女學校出則從事文學勤勉勵精入則奉仕父母孝順淑婉一日無怠宜哉女史及第于學級試驗而占其首座也妾實不堪欽羨也於是乎呈寶氏經濟論幷斯氏教育論以聊表祝意幸納之吁女史卒其業而扶助其夫養育其子蓋在何日乎想應在近日女史請努諸　賤妾晴子頓首々々敬白

〇第十九二十號數學答式

$$3:7,5=54.5:x$$

$$x=\frac{7,5\times 54,5}{3}=/36,25$$

一圓三十六錢二厘五毛

濱松　矢部革子

$$50\ :/2=64:x$$

$$x=\frac{600}{64}=9\frac{3}{8}$$

九ヶ月八分ノ三

麻布　西村晴子
山形　曾原俊子

〇新題

和歌（落花）　俳句（蓮華草）

詩（花下步月）五七言律隨意　文（送友歸故鄉）和漢文隨意片假名交三百字を限る

數學題

輕重の錘を兩端に垂て之を釣り平均を得る衡平の如きあり左の長二尺一寸右長五寸而して左に垂る甲錘三百目あり乙錘ハ幾何の重あるや

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

驛遞局認可

廣告

生徒募集廣告

本校ハ從來米國女教師両名日本教師數名ヲ以テ英學音樂幷ニ普通學ヲ教授セシガ今般新築候ニ付不日芝區白金猿町ヘ移轉スルニ依テ通學幷ニ寄宿生ヲ募集ス又各々ノ望ニヨリ英學音樂ノミヲ專修スルヲ得ル學望ノ人ハ學期ノ都合モ有之ニ付本月中ニ申込アレ規則ヲ望ム人ハ郵券二錢送附アレバ進呈スベシ

明治十九年 月

芝區二本榎二町目三十四番地

頌榮女學校

西森武城君編輯

● 生徒必携 作文獨稽古 鼇頭いろは分字類

和製中本全一冊 定價貳拾貳錢

七條峰太郎君編輯

● 女子必携 女子作文楷梯 鼇頭作文要用字類

和製中本全一冊 定價貳拾貳錢

從前小學校の生徒に文を教ゆる男女一樣なるの爲め女子の爲めに不都合多きハ教育家の常に患ふる所也然れ共女子作文を教ゆる好書なきか爲めに只た患ふるのミにて之を濟ふ能ハず今此書ハ專ら女生徒よ婉曲にして通ず易き作文を教へ男生徒一樣の不都合なきことを計る爲めよ編著せるものにて作文獨稽古と共に小學教員及ひ生徒諸君の錦囊たる書なり

堀内正路著 細圖入白紙摺美本

○千家正流 茶の湯客の心得再版 全一冊

舊定價四拾錢 改正廉價金卅五錢

此書ハ千家直傳の免許を受たる堀内大人の新著にして先きよ出本致候處江湖の喝采を博して發賣を以幸いに數千部を賣り盡し今般再版仕廉價を以て發賣致し候へば苟も茶道を好む諸君ハ一本を備へて千家の奧意を學ぶの捷徑に供し給ふべし

東京京橋區三拾間堀壹丁目五番地

九春堂 敬白

漢馬融撰 日本佐藤楨先生旁釋

○忠經旁釋

木板手刷 正價拾錢 郵税四錢

○明治英名傳

正價金三十錢 郵税共

○人命保險 人間長壽法

正價郵税共三十錢

○清國漫遊誌

正價金四十五錢 郵税自便

小學生徒 美容術 全一冊

定價金八錢 郵税金二錢

發行所 東京々橋區南鍋町貳丁目拾壹番地 績文舍

持主兼編輯人 松本義弘

印刷人 初鹿野錦五郎

女學叢誌賣捌所

大賣捌所

東京芝區愛宕町一丁目三番地 修正堂
同 神田區淡路町 巖々堂
同 神田區佐柄町廿一番地 東海堂
同 神田區雉子町 團々社
同 日本橋區新敲町 辰明堂
同 牛込肴町十七番地 活神堂
同 芝區愛宕下町二丁目 高梘堂
同 蠣売町貳丁目 信文堂
同 本郷區本郷元富士町二番地 盛春堂閣田
同 同本郷春木町貳丁目 解明堂
同 牛込區牛込神樂町 積善舍
大坂府備後町四丁目 岡嶋支店
千葉縣千葉本町一丁目 立眞舍
藝州廣嶋大手町一丁目 早速社
江州彦根西内大工町 新々堂
陸前國仙台大町四丁目 木村文助
越後國長岡裏壹之町 大橋書房

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY